

# 自立した主権者 をめざして



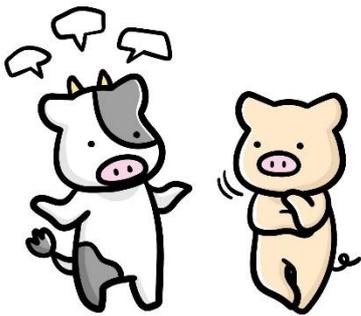
Vol.21 関係性を更新する

## KEYPOINT

- ① あなたはロシア、ウクライナ問題について、人にどのように伝える、または伝えようとしていますか？
- ② 吉田選挙とはなんだったのか

## SUMMARY

誰かに何かを安心して伝えられる社会とは、どんな社会でしょうか。そしてその社会を実現するために、私たちは自分以外の人々とどのような関係性をつくっていけば良いのでしょうか。SDGs、多様性が求められる現代社会に根強く残る分断と不信をなくすには、私たち自身の心の持ちようを変える意識を持つ必要があります。



## 伝えたい人に伝えたい事を伝えられるのか

自分が行っている活動や考えていることについて誰かに伝えようとする行為は、自分が想像しているよりもハードルが高いものです。例えば会が主催するイベント、例えば選挙の応援を、「不特定多数の誰か」に伝えることは、恥ずかしさだけをクリアすればそれほど難しくありません。むしろ1回やってしまえば、楽しい、充実感があるものであったりします。しかし、「特定の人」特に身内であったり、友人であったりする人たちにチラシを見せながら「実は今度ね」と切り出すことは、やらなければと思うほどできなくなり、タイミングを逃してしまうという経験をされた方は多いのではないのでしょうか。人は、自分がやっていることを意外と他人に広めようとしません。

これは SNS などネットの世界でも見受けられ

ます。毎日のランチや友人たちとの集まり、参加したイベントの報告をする人は沢山いても、イベントの告知（特に非営利）、自分の思想、政治や社会についての意見を投稿する人は「そういうキヤラクター」として周囲から認められている人に限られているように思えます。

何故私たちは人に伝えられないのでしょうか。自分が良いと思う事、正しいと思うことを伝えることに抵抗があるという事は、本当は良いと思っていない、正しいと思っていないのでしょうか。

丸山健二氏（最年少芥川賞受賞者）が日本人の特性を「物事の本質に迫るのが最も苦手なのが日本人だ」と表現しています。「島国に大勢いるから本質や核心に触れると、お互いに角が立つ。それを最も嫌う国民だからです」という説明です。このような国民性だから、顔のわからない不特定多数には話せても、普段から距離の近いよく知っている人には話せないのかもしれない。

おそらく、親しい人に伝えようとする直前、「この人に話したら嫌われるのではないか」「拒絶や反撃をされるのではないか」「陰で何か言われるのではないか」と考え、躊躇するのです。つまりこの時点で自分という人間をさらけ出しても崩れない

関係性を相手と作り上げてこなかったという事実  
に直面しているのですが、残念ながらそのことに  
気付くこともあまりありません。自分はとても良  
いと思っているのだけれど人に伝えようとすると  
上手くいかないで誤解されてしまうかもしれない  
と不安に思う気持ちは、無意識のうちに自分の意  
見を他者に伝える、広げることへのためらいを生  
みだしているのではないのでしょうか。

## 時代の変化は、関係性の多様性を求める

自分が拒まれ、否定されることを恐れる一方  
で、私たちは「多様性」を受け入れる重要さを口  
にします。多様性というと性別、人種、国籍、性  
的指向や性自認、障害の有無など、生まれ持った  
特徴で変えることができないものを想像しがちで  
すが、私たちの思想や人間性は、生きる中で培っ  
てきた知識や経験などで形成されるため、個人の  
内側に複数の面をもつことになります。これは  
「個の多様性」といわれますが、そうした多様性  
を持つ個人同士が関係性を持つことで形成されて  
いるのが家庭や地域コミュニティなのです。関係  
性の種類もまた多様です。

ここで疑問が生じるのです。多様性を受け入れ  
ることが重要で、当然受け入れられるべきものと

理解していながら、自分が受け入れられることに  
まったく自信がない、という社会はなぜ生まれる  
のでしょうか。

まだ収まらないコロナ禍。ロシア、ウクライナ  
問題、止まらない円安、貧困、虐待等、私たちは  
日々不安と不信の中で暮らしています。これらの  
問題は一見すると別のものに見えるかもしれませ  
ん。しかし、その根本には「関係性のあり方」が  
共通の課題としてあります。他者との関係性をど  
う更新したら不安が減るのか、他者の多様性を認  
められるようになるのか。そのこと自体を話し合  
う場が必要ということはわかっているけど、そこに  
どんな関係性を求めるのか。他者を認められた  
時、初めて自分も受け入れられるという確信が持  
てるのです。

### 〈機関紙「日本再生」No.516 の内容〉

2022/05/01 発行

●3-12 面/コラム/一灯照隅 ●13-17 面/インタビュー/  
ウクライナ問題から考える「表現の自由」/志田陽子・武蔵  
野美術大学教授 ●17-20 面/インタビュー/自治体議員  
の経験知を生かして/渡辺創・衆議院議員

※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先ま  
でご連絡ください。

一緒に  
考えてほしいこと

- ・あなたは自分の活動や思考を親しい誰かに伝えてありますか？
- ・多様性を受け入れるとは、結局どういうことでしょうか？

### 【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所：埼玉県越谷市大里 226-1 白川ひでつぐ事務所  
担当：吉田理子  
ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP 埼玉読者会 note



がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義」を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。